

上田市教育委員会 12月定例会会議録

1 日 時

平成27年12月16日（水） 午後3時8分から午後4時まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	小林 一雄
教育長職務代理者	城下 敦子
委 員	山崎 順子
委 員	寺島 滋
委 員	北沢 秀雄

○ 説 明 員

西入教育次長、浪方教育参事、倉島教育総務課長、小井戸学校教育課長、宮崎人権同和教育政策幹、浅野文化振興課長、滝沢スポーツ推進課長、柳沢真田地域教育事務所長、清住武石地域教育事務所長、村山第一学校給食センター所長、神林中央公民館長、池田城南公民館長、山崎上田図書館長

1 あいさつ

2 〈協議事項〉

(1) 今後の学校給食運営方針（案）について（教育総務課）

○ 資料1により倉島教育総務課長説明

この件については、先日の総合教育会議において今後の学校給食運営方針についての方向性を市長と教育委員会との間で確認した。本日はそれを受け今後の学校給食運営方針をご決定いただきたいというものである。教育委員の皆さま方には、長野市あるいは市内の給食施設をご覧いただきこの問題に精力的に取り組んでいただいた。方針案の内容は既に十分ご承知のことと思うが、あらためて内容を説明させていただきたい。

資料右側の学校給食のあり方については平成23年の6月に学校給食運営審議会から答申をいただいた。答申の性格としては上田市の学校給食のあり方についての理念及び望ましい実施方針を示したものである。理念については次世代を担う子どもたちをはぐくむ学校給食である。内容は大きく分けて3つである。1は、学校給食における食育の推進についてということで学校給食を生きた教材として活用していく。あるいは、地場産物をしっかり使っていきましょうということ。それによって上田に愛着を持つようにすることが大切であるといったようなこと。それから(3)のところでは食物アレルギーへの対応で、まだあまりできていないわけであるが、将来的には対象となる児童生徒にすべて代替食を提供できることが望ましいということがうたわれている。2のところでは、安全で安心できるおいしい学校給食の提供についてということで、(1)衛生管理の徹底とある。特にドライシステム化は上田地域の施設はまだできていないのでこれを図って衛生管理をさらに徹底していきたい。それと老朽化した施設については施設設備の改善を図っていきたいということである。(2)のところでは、給食内容の充実ということで教材としての機能を十分果たせるようにということで、行事食や郷土食あるいは日本型の食生活とこういった内容も工夫しておいしい給食を作っていくというようなことがうたわれている。3のところでは、学校給食の運営のあり方についてである。(1)は、調理方式としては単独調理場方式を望ましいとある。しかしながら効率性や行政負担を考慮し、安全面や食育面に十分配慮した別の方法を検討することも考えられる。(2)の運営形態のところでは、民間委託にするのか直営でいくのかということであるが、民間委託を視野に入れて検討する余地はあるが、学校給食の質を低下させないことを十分配慮して検討してほしいというようなことがうたわれている。

教育委員会では、このような答申を受け、今後どのようにしていくかということを検討を重ねてきた。しかしながら、施設をセンター方式にするのかあるいは単独調理場方式にするのか、あるいは運営を直営でいくのか委託でいくのか、それから数多くある老朽化した施設をどうするのか、こういったことについて本当に様々な考え方があり、ここまで多くの時間を要してしまった。教育委員会として最終的にいろいろ議論があった中でまとめたものが左側の学校給食運営方針である。まず1としては答申のなかでも強く打ち出されてきている食育の推進である。ここでは、特に、学校における食育推進体制を整備するということである。やはり何といても食育を直接教えられるのは学校給食を題材としながら学校の先生方であるので先生方の意識を高めるということ、それから指導方法を系統化していくということで、そういった食育推進体制を整えることが大事であると考えた。さらに、教育委員会に食育推進の栄養士を配置し学校との連携や、学校に入り食育の授業を今まで以上に数を増やししながら充実させていく。あわせて保護者への啓発ということも非常に大事であるのでそういったことを進めていく。それからこれまでと同様に地場産物を積極的に使ったり、あるいは、米

飯給食中心にしたり可能な限り国産の食材を使う。またできる限り手作りによる調理をしていくといったようなことも方針として入れ込ませていただいた。2番目は、食物アレルギーへの対応についてということである。今、学校現場ではアレルギーに対する対応は非常に重要になってきている。今年の5月現在では医師の診断書を受けた児童生徒が265人いる。しかし、その3分の2は対応できていない。第一センター、あるいは第二センターの子どもたちはまだ対応できていないということである。こういった子どもたち全てに対してアレルギー対応をしっかりとやっていこうというのが2つ目の方針である。それには、アレルギー対応設備を備えた新たな給食センターを整備し、そこに栄養士、それから調理員を配置していこうという方針にした。それから3つ目は学校給食施設の整備ということで、(1)では施設の衛生管理を徹底、老朽施設を更新して安全で安心できるおいしい学校給食を継続すること。それから(2)のところでは今後の公共施設のあり方を見通した施設統合を行うということである。今年の6月に上田市公共施設白書というものが出された。今後40年間、今と同じ設備、規模を維持するために更新をしていくとこれまでの5年間の1.5倍の投資を毎年していかなないと今の施設の維持はできないという白書が出された。人口減、それに伴う財政状況の厳しさといったことを考えると当然、学校施設も給食施設も今後できるだけコストを軽減しながらやっていく必要がある。そういった考え方を見通して今回の案をつくった。具体的には、第一と第二それから川辺小を廃止し、新しい統合給食センターをつくる。そこには、ドライシステム化を入れたりアレルギー対応施設を整備していく。それから東塩田小学校については市内で一番古いわけだが、こちらは廃止をし、丸子の給食センターの方へ統合する。丸子、真田、武石地域の調理場はまだ利用可能なので当面現状維持をしていくという方針である。そしてなぜ、自校給食でいかないのかということだが、一食あたりの人件費を計算すると小学校の給食を作っている第二給食センターが176円、それから現在、川辺、東塩田小学校については251円と大きなひらきがある。この251円というのを今センターでやっている14校をもし自校化した場合にどうなるかということを経営数全体に乗じると約1億円の差が出てくる。これは非常に大きな差である。毎年ということであるので、こういったことについてはやはり十分配慮しなければいけない。そういった意味でセンター化、統合センター化を選択したということである。それから4の学校給食の運営方法についてであるが、他地区から来られた先生方は上田の給食はおいしいとよく言ってくれる。調理技術の習得には時間がかかる。従って今いる給食員がノウハウを活用して安全で安心できるおいしい学校給食を継続していきたい。そして施設を統合することで施設もそれから人的にも効率化を図り運営していく。それから配送については、多くの他地区の施設では配送委託というかたちで民間委託をしているが、上田市についてはこれまでどおり、直営で配送もやっていく。このようなノウハウをまとめたということである。本日、ご協議いただき、この案を正式決定していただければと思う。

○ 質疑

山崎委員

学校給食運営方針(案)のなかで、3の学校給食施設の整備の部分に全市内の施設でアレルギー対応を実現とある。これは、丸子の給食センター及び真田と武石の給食でもきちんと対応して下さるという認識でよいか。

倉島教育総務課長

現在、丸子の施設については、専用の部屋をもって担当の栄養士、それから調理員をつけて既に対応している。それから自校給食校については、全て対応している。現在、できてい

ないのが、第一学校給食センターと第二学校給食センターである。ここを統合して新しい施設にし、新しい施設にアレルギー対応の施設、設備を整えてそこに職員を配置し市内全校が対応できるという状況にしたい。

城下委員

宿直に関しては、これから決めていくのか。

倉島教育総務課長

今回は、学校給食運営の大きな方針を定めていただくということである。具体的にどのようにやっていくかについては、今後も検討していく。

小林教育長

現在、案の段階であるが今日はこれを正式決定したいと思う。そういうことで、ご異議はないか。

全委員

異議なし。

○ 全委員 了承

(2) 上田市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について（学校教育課）

○ 資料2により小井戸学校教育課長説明（要旨）

上田市いじめ問題対策連絡協議会等条例第2条に規定する本協議会の新規委員20人について承認をお願いしたい。開催は年2回程度であり、委員の任務は、関係機関・団体の連絡調整、連携の推進、いじめ防止対策等の推進などに関する調査審議である。なお、委嘱期間は委嘱の日から平成29年3月31日までである。

○ 質疑

寺島委員

個人的な委嘱というよりも充て職的と見受けられるが、役職が変わったり、異動されたときには、そこでまたあらためて委嘱されるのか。それとも自動的に後任の方に引き継がれる仕組みになっているのか。

小井戸学校教育課長

条例に規定があり、欠員が生じた場合は、その団体から推薦をいただき、残任期間の補充というかたちで代わっていただくことになる。

寺島委員

ここで承認するということは、個人よりもその団体の推薦があればいいということか。

小井戸学校教育課長

はい。

城下委員

年2回ほど開催するという説明であったが、委員会のなかでもう少し回数を多くするとなれば開催回数が増えるということはあるのか。

小井戸学校教育課長

2回というのも限定的ではない。2回程度で予定している。1回目は年度が変わったときである。例えば前年度のいじめの件数であるとかいろいろなデータがまとまってくるので、新たな年度で情報を共有していくということである。また、それ以後については、その年の動きであるとかいろいろな社会情勢についても取り入れながら情報交換というところで連携していく。特段、諮問等何かあれば2回にこだわることはないが、今後も最低限2回で考えている。

城下委員

横の連携と言っていたが、委員の中での横の連携は図れると思うが、具体的に学校のほうに働きかけをしてくださるということもあるのか。

小井戸学校教育課長

この団体として、学校に要請するようなことがあれば当然お伝えもするし、委員に校長会の先生も入っている。そういった方にも当然お伝えするのでいろいろな市内の情報、いろいろな現状がかなりここで集まってくる。例えばこういった連携が必要だとか、こういったことが足りないのではないかということが当然わかってくると思うので、そういったものを校長会とも協力していじめ防止に役立てていきたい。

城下委員

いじめが起こってからではなく、起こる前にというところを一生懸命動いてくださるということ期待している。

○ 全委員 了承

(3) 上田市いじめ問題調査対策委員会委員の委嘱について（学校教育課）

○ 資料3により小井戸学校教育課長説明（要旨）

上田市いじめ問題対策連絡協議会等条例第10条に規定する本委員会の新規委員の5人について承認をお願いしたい。委員の任務は、いじめ防止対策を実効的に行うための調査研究及び重大事態に係る事実関係の調査である。なお、委嘱期間は委嘱の日から平成29年3月31日までである。

○ 質疑

城下委員

最初のいじめ問題対策連絡協議会20名と、調査対策委員会5名というシステムがあるわけだが、保護者の方や学校の現場の方にわかりやすくこのシステムを図で表したほうがよいのではないかと。例えば保護者の方も学校現場でいじめがあったらどこに声をかけたらいいのか、それを最終的には調査対策委員会でしっかりやってもらえるというのがフローチャートで見られるようなかたちになっていると、保護者も子どもたちにとっても安心する材料になるのではないかと。私たちは今ここで聞いて説明を受けるのでわかるが、学校現場の方にももう少しわかりやすく提示できればいいと思う。

小井戸学校教育課長

上田市のいじめ基本方針の中にフローチャート図がある。そのフローチャートの中には、教育委員会、協議会、調査委員会、再調査委員会、学校現場についても記載されており、これは全ての学校に周知してある。学校の中でも専門の会議をつくっている。いろいろな場面でいじめに対して調査したり啓発したりと市議会も含め体制が全部できているものがある。

小林教育長

各学校でも防止のための組織をつくるように定められている。

山崎委員

今、説明いただいた二つの委員会だが、一緒に何か話しをする機会というものはあるのか。日常的にアドバイスしたいことはあると思うが、委員会の性質上本来あまりこの委員会が開催されないほうが良いというものだと思う。普段は対策連絡協議会の方たちが防止なり、情報共有などをしていて、何か重大な事態があったときに調査対策委員会の方たちが動くというイメージでよいか。

小井戸学校教育課長

そのイメージでよい。今のところ合同でということは考えていないが、情報は共有していくということでしっかり引き継いでいきたい。

○ 全委員 了承

(4) 平成28年上田市成人式実施概要について（生涯学習課）

○ 資料4により宮崎人権同和教育政策幹説明（要旨）

平成28年1月10日（日）に、中学校区を中心に市内7会場で成人式が行われる。該当者は、平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた方で合計1,544名である。丸子、真田、武石地域は午前11時の開式、上田地域は午後1時30分の開式である。アトラクション等も予定されており、記念品として上田紬の印鑑入れが贈られる。

○ 全委員 了承

3 〈報告事項〉

(1) 学校教育関係寄附の状況（学校教育課）

○ 資料5により小井戸学校教育課長説明（要旨）

12名の県外の方と3名の市内在住の方からふるさと寄附金をいただいた。これで27年度累計は44件で金額は、1,155,120円である。

○ 全委員 了承

(2) 平成27年度「青少年善行表彰」及び「家庭の日」作文審査結果について（生涯学習課）

○ 資料6により宮崎人権同和教育政策幹説明（要旨）

平成27年度青少年善行表彰結果について6つの団体が受賞された。また、「家庭の日」作

文審査結果については、応募数564点のうち優秀作品は3点、優良作品は10点であった。なお、表彰式はどちらとも12月5日（土）に中央公民館大会議室で行われた。

○ 質疑

小林教育長

善行表彰はできるだけたくさんの学校から応募していただきたいという考えか。

宮崎人権同和教育政策幹

なるべく広くいろいろなものを挙げていただくように学校や、社会教育指導員、青少年育成推進指導員の団体の方たちに呼びかけている。このほかに3つほど推薦があったが、一般的なことということで選考にもれた分もある。基本的には広く挙げていただき子どもたちに自信を深めてもらうために表彰している。

○ 全委員 了承

(3) 文化振興関係寄附の状況（文化振興課）

○ 資料7により浅野文化振興課長説明（要旨）

6名の県外の方からふるさと寄附金をいただいた。これで27年度累計は67件で金額は、1,014,338円である。

○ 全委員 了承

(4) 2016シリーズ文化講演会の開催について（文化振興課）

○ 資料8により浅野文化振興課長説明（要旨）

上田市合併10周年記念上田市文化団体連携事業としてシリーズ文化講演会が3回に渡って開催される。全て申込不要の入場無料である。またスタンプラリーも開催し、全ての回に参加された方全員に真田氏グッズを差し上げる。

○ 全委員 了承

(5) 文化財 de 文化祭開催報告（文化振興課）

○ 資料9により浅野文化振興課長説明（要旨）

平成27年度文化財 de 文化祭として第一回が8月7日（金）に旧常田館製糸場施設で行われ、第二回が10月17日（土）に信州大学繊維学部講堂で行われた。第一回の入場者数は250名、第二回が200名であった。

○ 全委員 了承

(6) 第10回子ども文化講座開催報告（文化振興課）

○ 資料10により浅野文化振興課長説明（要旨）

平成27年11月14日（日）に中央公民館3階大会議室で第10回子ども文化講座が開催された。主催は上田市文化少年団で講師として上田岳風会の今井澄江さんにお越しいただいた。詩吟について教えていただき、実際に皆で詩吟「大きなかぶ」を練習し、詩吟に親しんだ。入場者数は56名であった。

○ 全委員 了承

(7) 真田氏歴史演劇鑑賞事業報告（文化振興課）

○ 資料11により浅野文化振興課長説明（要旨）

大河ドラマ放映に合わせ、児童に上田市の歴史や文化を学んでもらうことを目的に、地元で活躍する劇団を学校へ派遣し、真田氏一族の活躍をテーマにした演劇公演を6つの小学校で行った。演劇内容は真田氏を題材とした演劇（ミュージカル）公演で参加児童数は1,894人であった。

○ 質疑

北沢委員

子どもたちの生の声が活字ではなく、直筆で書かれているのは好感が持てる。

城下委員

6つの学校は立候補されたのか。それともスケジュール的なものか。

浅野文化振興課長

当初に希望校6校を募集した。

○ 全委員 了承

(8) 第19回うえだ城下町映画祭開催報告（文化振興課）

○ 資料12により浅野文化振興課長説明（要旨）

第19回うえだ城下町映画祭が11月7日（土）と8日（日）に上田文化会館で行われた。入場者数は、延べ1,100人であった。

○ 全委員 了承

(9) 市長表彰について（スポーツ推進課）

○ 資料13により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

平成27年12月11日に、第70回国民体育大会馬術競技に参加された増田真七海さんが市長表彰された。結果は、成年女子二段階障害飛越第2位であった。

○ 全委員 了承

(10) こころのプロジェクト「夢の教室」実施報告（スポーツ推進課）

○ 資料14により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

平成27年度JFAこころのプロジェクト「夢の教室」が市内6校11クラスの小学校で実施された。フットサル、サッカー、レスリングなどの講師が来て実施した。

○ 全委員 了承

(11) スポーツ関係市長表敬訪問報告（スポーツ推進課）

- 資料15により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

11月10日（火）に少林寺拳法丸子スポーツ少年団が、11月26日（木）に腰越JSCが大会に出場するため市長表敬訪問された。記念品として、真田幸村フェイスタオル、真田幸村ペットボトルフォルダーが贈られた。

- 全委員 了承

（12）平成27年度第55回上田市短詩型文学祭実施報告（中央公民館）

- 資料16により神林中央公民館長説明（要旨）

11月15日（日）に上田文化会館ホールで第55回上田市短詩型文学祭の表彰式が行われ、入選発表及び表彰、部門別研究会が行われた。一般の部が144人、小学生929人、中学生562人で合計1,635人の募集があった。

- 全委員 了承

（13）行事共催等申請状況について（学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課）

- 全委員 了承

4 〈その他〉

- 特になし

閉会